

令和4年度小平市立小平第十一小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

東京都平均と比べ、話すこと・聞くことの領域では3.7ポイント、書くことの領域では6.9ポイント、読むことの領域では4.2ポイント上回った。観点別では知識・技能で3.3ポイント、思考・判断・表現で4.7ポイント上回った。

課題

全体的に正答率が高いが、言葉の特徴や使い方に関する選択問題や、物語の全体や人物像を想像する記述問題で無回答率が高かった。語彙を豊かにし、自分の考えを適切に表現する力をつける必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

授業時間の始め5分間位で、「5分間日記」「言葉集め」「味見読書」「音読」などに継続して取り組み、日常的に楽しみながら言語感覚を豊かにする活動を取り入れ、アンケート回答のポイント上昇を目指す。対話・交流の目的や内容を学習課題に合わせて明確に設定し、児童が、自分の考えを対話・交流によって更新していく振り返りの時間を確実に設定する。

【算数】

状況の分析

すべての領域において、東京都平均を上回った。とくに、図形の領域では7.7ポイント上回った。観点別では、知識・技能で4.3ポイント、思考・判断・表現で7.4ポイント上回った。

課題

全体的に正答率が高いが、百分率で表されたものを分数にしたり、百分率を基準量として比較量を求めたりする問題で無回答率が高かった。異種の2量の割合や単位量あたりの大きさを用いて比較する活動の習熟を図る必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

分数や小数などを取り扱う学習では、「整数を分数に直す。」「分数を小数に直す」などの数量関係を明らかにし、単元全体を通して数量感覚を養う指導を行っていく。具体物を用いて、数量関係を表すことで、児童の学習理解を進めていく。また、割合の問題解決の方法として「数直線」などの有効な手段を児童と共有し、合理的で正確な問題解決が図れるよう支援していく。

【理科】

状況の分析

課題

すべての領域において、東京都平均を上回った。とくに、「生命」を柱とする領域では4.2ポイント上回った。観点別では、知識・技能で0.5ポイント下回り、思考・判断・表現で4.8ポイント上回った。

実験器具名称の無回答率が高く、問題解決に必要な情報が取り出しやすい記録を選択する問題での正答率が低かった。このことから、実験や観察等の活動を通して必要な情報を取り出し、簡潔にまとめる力を身に付けさせたい。

学校で取り組む具体的な改善策

実験の結果から考察する活動では、友達と意見交流する活動を取り入れ、自分の考えを深められるようにする。また、自力解決が難しい児童には、話型を示すなどの手だてを用いて自分で考察できるようにする。自然事象との対話を大切に、実験・観察の体験を積み重ねていく。実験・観察の際の手順や器具の使い方等も定着するよう繰り返し指導する。

【質問紙】

状況の分析

課題

東京都平均と比較して、国語・算数・理科の学習が将来役に立つと肯定的に捉えている児童の割合が多く、学習することの大切さを実感している児童は多い。また、課題解決に向けて自分で考えたり、思いや考えを作文や作品にまとめるなどの表現活動にも前向きに取り組んできたことがうかがえた。

東京都平均と比較して、読書を好む児童が少ないこと、家で自分で計画を立てて学習する傾向が低いことが分かった。学んだことを次の学習に生かせるような振り返りや、自主的に読書や学習が進められるような働きかけの工夫をしていく。また、タブレットを活用した学習を充実させ、話し合い活動等に生かせることよい。

学校で取り組む具体的な改善策

読み聞かせやビブリオバトルなど、学校での読書に関わる行事を通して、本に触れる機会を増やすことで、読書活動を啓発していく。家庭学習を促進させるために、児童一人一人の学習についての課題や目的を明らかにさせ、意図をもって家庭学習に取り組ませる。特に、自主学習について自分のテーマ追究や課題克服など、自分なりに考えた学習内容・方法を尊重し、進めさせていく。中々テーマや課題設定が決まらない児童に対しては、取り組みやすいテーマを提示したり、今後の学習の見通しをもたせたりすることで、習慣化を図っていく。タブレットを活用した家庭学習の方法についても検討を進め、「継続でき、目的意識をもって取り組める」ような内容を考えていく。